

再発と悪化を繰り返す

小児とびひに対し急性期サポート が奏功したケース

JPHMA認定ホメオパスNo. 1128

JPHF認定フラワーエッセンス療法士



日本ホメオパシーセンター岐阜北方 溝口彩子

主訴

4歳男児。再発を繰り返す伝染性膿痂疹。

症状

- 多量の滲出液
- 発疹の拡大
- 強い掻痒感
- 掻破を繰り返す
- シャワー時の疼痛が強い
- 脱衣→洗浄→保湿→着衣に約 1 時間かかる



背景

- 2歳 皮膚がきれいと言われ周囲から褒められる
- 3歳 転居と妹の誕生に伴いアトピー性皮膚炎の傾向が出現
- 2025年 4歳 6月 転園→皮膚症状が悪化→皮膚科受診
- 8月 プール開始→園で伝染性膿痂疹が流行→発症。
- 9月 抗生物質とステロイド外用薬を使用→一時改善
→再発悪化

緊急
相談

2025. 10. 11

- ・クライアント → 滲出液の影響で歩くのが痛い。お風呂を拒否。
- ・母 → 辛い、きつい、見たくない。今すぐ解決したい。夫に治療方針を理解されず孤独。

TBR検索

- 1 : 1468# 痒い発疹
- 2 : 2131# 引っ掻く
- 3 : 1390# 肥厚した皮膚
- 4 : 1063# 過剰なアレルギー

朝

- MT) アーティカプラット アトピー性皮膚炎
- + Bac. 200c 化膿、長引く感染、回復の遅れ
- + Strept. 200c 溶結性連鎖球菌から作られたレメディー
- + Staphyl. 200c 黄色ブドウ球菌から作られたレメディー
- + バイタルソルト 回復力の底上げ(TBR2位含む)
- + Ant-c. LM1 伝染性膿痂疹の主要レメディー

昼

- Penic. 30c ペニシリンから作られたレメディー
- + Nit-ac. 30c 伝染性膿痂疹の主要レメディー
- ※粒

夜

- MT) エキネシア 血液の浄化、免疫の向上
- + Sep. LM3 痒み、疲労(TBR1位)
- + 石上神宮の手水 6c 痒みの軽減
- + 天岩戸神社の水 6c 痒みの軽減

とりかた

- ・ MTはそれぞれ適量の200mlの水に5滴
- ・ 昼の粒のレメディーは1回1粒
- ・ 外用手当として、Cクリーム、カレンデュラローション、ガーゼ保護

経過

- ・ 10/7 ➡ レメディ到着。夜より開始。
- ・ 10/26 ➡ 滲出液の減少。疼痛なく入浴可能に。湯舟で遊べるようになった。持続的なひりひり感は消失。



健康相談 | 2025. 10. 29

前回は5分ほどの短時間だったため、改めて聞き取りを実施。TBR検索結果(4位Sep.、5位Ant-c.)を踏まえ、前回のレメディーを継続方針とした。母親がクライアントの咳と鼻づまりを気にされていたため、呼吸器に対応するレメディーを新たに選択。

TBR検索

- 1 : 218# 虫菌
- 2 : 578# 乾いたコリーザ
- 3 : 1736# 内部が過熱することから悪化
- 4 : 1522# 痒み

頓服

- 液) サポート肺 咳の傾向、虫菌の位置が肺と関連
- + Acet-ac. 6c 代謝改善
- + But-ac. 6c 腸粘膜の修復、抗炎症
- + Faec. 30c 炎症性サイトカインの抑制
- + Berb. 6c 虫菌の位置が腎臓と関連
- + Bor. 12x 虫菌

寝る前

- 海神社の手水30c 細胞分裂活性化
- + 紺屋が池の水30c 骨強化

結果

改善傾向は継続していたが、2026年以降症状が再出現。初春には掻痒も増強。母親はさまざまな試みを続けてきたが、精神的な限界を迎え、薬の使用を決断。この時点で、本相談会は一旦終了とした。



同時期、クライアントの妹伝染性膿痂疹を発症。鼻周囲を中心に症状が悪化。クライアントと同内容のレメディーを飲み改善。



01 感染背景を多層でアプローチ

原因菌のレメディーを同時に用いて伝染性膿痂疹特有の“感染が巡る・広がる”をサポート。

02 肌にやさしいケア

Cクリームやカレンデュラローションを使用。
ガーゼの寝間着など、身に着ける素材にも配慮。

03 遊びや親子の時間を増やした

その他、ホメオパシーの講座受講、衣類や生活環境、食事への配慮がなされた。恐れに立ち向かい、迷いながらもお子さんに寄り添い続けてこられた日々が、改善の要因になったと考えられる。

選び、戻り、また選んでをくりかえし

本音に気づき、出たり入ったりしながら進むもの

自分の旬に素直でいよう。

どんな選択も、その人だけの道につながっている。



最後まで御覧いただき、ありがとうございました！